

築く。更なる成長への階段

-20代後半の日本留学体験-

東京デザイナー学院建築デザイン科住宅デザイン専攻 張 為棟

CHANG Wei-tung

私の留学生活が始まったのは、今年（2012年）の4月のことでした。振り返ってみると、まだ3ヶ月しか経っていないけれども、毎日が充実で、それ以上の時間を過ごしたような感じでした。授業はもちろん、5月には新入生研修旅行、6月には学科の歓迎パーティと初の校外授業があって、とても忙しいです。

来日したのは去年の5月。そのときはワーキングホリデーでした。大学時代は日本語を専攻していて、日本に留学することは前からずっとしようしようと思ってたけど、なかなか実現できず、そのまま就職して2年ほど働いていました。仕事はときどき日本の取引先とやりとりはしましたが、自分としてはなんだか物足りなさを感じていました。毎日同じサイクルの生活に疲れて、何回か悩んだあと、もっと新たな刺激が欲しい、新しいことを学んで更に成長したいと、ようやく日本へワーキングホリデーすることに決心がついたんです。

日本に来て、ワーキングホリデーということで、まずは目新しい日本の街・景色を楽しみました。あらゆるものがとにかく新鮮で、最初の1ヶ月間は写真ばかり撮っていました。日本語も、さすが現地ということもあって、台湾にいたときでは考えられないほど新しい言い方の勉強や会話の練習もできました。

滞在期間の住む場所は都内にあるゲストハウスです。家探しは外国人にとってどうも難しく、日本国内に保証人も実家もない自分は、手軽に住めるゲストハウスが一番かと考えました。なんとか住居とバイト先が決まり、生活が安定するまで約2ヶ月かかりました。

しばらくして、ワーキングホリデーが終わったあとのことを考えはじめたんです。このまま日本に残って留学したら更に自分のプラスになるんじゃないかと思いました。東京には、大学時代のクラスメートがいて、その人は大学卒業後日本の専門学校に留学し、その後東京のウェブ関係の会社に就職しました。ワーホリ期間中、徐々に再会して色々聞かせてもらって、ますます留学する意志を固めました。

さらにもう一人のクラスメートが、私が来日して間もなく、東京にある専門学校にパティシエの短期留学をしに来ました。意外とみんなも自分と同じく、大学で学んだ日本語を生かして、日本でまた別の分野のことを勉強し、それぞれの夢を実現させようとしているなあと思いました。私はというと、モノ作りの仕事に憧れて、デザインのことを勉強したいと以前からずっと思ってたんです。なかでも、住宅建築に一番興味を持っています。

日本での生活に馴染むようになってから、専門学校のオープンキャンパスに足を運ぶようになりました。それが現在在学中の東京デザイナー学院(TDG)です。最初、

この学校に注目した理由は、有名な住宅デザイナーの先生がここで授業をなさっていると聞いたからです。来日後実際にオープンキャンパスに参加して、そこで学校の説明を受けて、学科の体験授業などにも行って、全体の雰囲気・授業内容が自分に合うかどうかを確認して、この学校のAO入学を申し込みました。その後AOプレスクールというのがあって、入学を決めた学生は、学校が正式にはじまる前に月1回の準備授業が受けられるのです。この準備授業は、建築模型の作り方や住宅の設計を自分で一からはじめるなど、想像以上に本格的な内容で今でも印象に残っています。それ以外の時間でも、学校に行って自分の好きな建物の模型を作ってみたり、建築雑誌を読んだりして、これから建築を学ぶ人間としてのポテンシャルを上げる準備をなるべくするようにしていました。学校の環境と先生方、先輩たちとも、しょっちゅう学校に通うおかげで馴染めて、留学生としての不安などは入学前からだいぶ払拭できました。

建築デザイン科は、東京デザイナー学院の中で学生数の少ない学科の一つです。イラスト科・アニメーション科などのメディア関連の学科と比べて、少し特異な存在と言ってもいいでしょう。今年自分のいるクラスは11人しかいなく、しかも全員男という例年からしても珍しい状況なのです。

大学を卒業して一回社会に出て、今年27の私は、案の定クラスの中の最年長となり、クラス内で年齢の一番近いクラスメートとでも5つ離れていて、自分にとって少し不思議な学校環境です。特に今年高校を卒業し現役で入ってきた同級生とはほぼ10年の差があり、こんなに年齢の離れた人と接するのは、今までの人生で初めてかもしれません。「年上の人」として見られて、自分ももっとしっかりとした大人にならないと、と思えるようになったのです。一方、20代後半の自分と違って、十分な時間を有している若者たちと同じスタートラインに立つことによって、これからの人生の進みについてとてもいいプレッシャーを受けていると感じました。少人数だからか、同級生たちとの間では、特に年齢の差ほどの距離は感じませんでした。クラス内みんなの仲がよく、仲間意識が高いです。授業が終わっても教室に残って、男子校みたいなノリでわいわい騒ぎながらみんな一緒にその週の課題を終わらせるのが当たり前のように毎日続いていて、放課後同じ路線の連中でカラオケに行ったり、課題を遅くまでやったあとラーメン屋に行ったりして、台湾で経験した学校生活より楽しい気もしました。勉強の面も遊びの面もとても充実なキャンパスライフです。

つづいて、留学が正式に始まってから今日までの約3ヶ月間、具体的な学校行事や印象に残ったイベントについてお話したいと思います。

まず、4月の第1週目のオリエンテーションは、学校の周辺を知る意味も含めて、近場の建築物のグループサーベイを行いました。気になった建物を調査し、プレゼンボードにまとめる授業でした。身の回りにある建築に目を向けて、グループメンバーたちとお互い気になった建物を出し合うことによって、違う視点での見方、自分だけでは気づきにくい建築の魅力などを発見することができました。

5月に入って間もなく新入生の研修旅行です。2泊3日で軽井沢方面へ美術館を中心に見に行きました。研修旅行は全学科共同で行っているのですが、途中ほかの学科の人ともお話ができて、インテリアデザイン科とかプロダクトデザイン科とか建築デザインと関わりのある学科は言うまでもなく、メイクアップアート科やファッションデザ

イン科など、全く触れることがなさそうな分野の人たちとの交流もいい刺激となり、楽しかったです。研修旅行中、一番印象に残ったのは2日目の宿泊先のリゾナーレ八ヶ岳です。リゾナーレ八ヶ岳は国内有数の高級リゾートホテルで、インテリアも建築も世界的に有名なデザイナーの手により設計され、私達にとってあちこち勉強になることが溢れています。そこでの研修は当日夜の夕食とそのあとのワークショップがとても印象的でした。

夕食は、将来社会に出て、正式な場面で食事することになっても、ちゃんとした振る舞いができるように、コース料理が用意されました。そこでホテルの方がテーブルマナーをレクチャーしてくださって、おいしい料理を堪能した上、とてもためになりました。ワークショップは自分のいる建築デザイン科のほか、インテリアデザイン科とプロダクトデザイン科との共同作業でした。内容はこの研修旅行の中でお気に入りの場所を見つけ、ピックアップしてそれらをグループで発表することです。オリエンテーションの時も似たような課題を経験したけれど、今度は他学科の人の観点を取り入れることもできたので、また違う経験です。また、自分のグループにはインテリアデザイン科の留学生が二人いて、それぞれ香港とマレーシアから来たそうです。二人とも優秀でとてもアクティブで、グループの作業を引っ張ってくれていて、同じ留学生として見習わなきゃと思いました。みんなで頑張った結果、参加者全員の投票で優秀作品として選ばれました。自分の中ではこの研修旅行の中で小さなゴールを達成できたので、嬉しかったです。

5月と6月はそれぞれ各専門学校・大学の卒業制作展と「わたしのしごと展」という学校内の2年生が就職先の企業に向けたポートフォリオ展示があります。せっかくの機会なので、自分も見学に行きました。立派な作品がたくさん展示されていて、まだまだ建築の勉強をスタートしたばかりの私は、それらの作品に対して感心することしか出来ませんが、2年後この学校での留学を終えた頃、自分の到達点はどこにするべきか、その目標まではどれほどの距離があるか、先輩たちの作品を介して自分の中で把握できた気がしました。

夢を実現させる道のりは長いけど、専門学校の留学期間は短いです。限りある時間の中、如何に効率よく学習して自分の設定した目標まで成長するかは、私みたいな専門学校の留学生にとって一番重要なポイントだと思います。これからの夏休みを迎え、1年目の第1段階の授業はもうすぐ終わります。しばらく授業のない間、私は建築展や建築探訪の計画を立てて充実した時間を過ごしたいと思っています。